

平成22年度 「学校評価」(年度末)

学校教育目標
I 一人ひとりに応じた学力をつける (1) 基礎基本の徹底 (2) 指導方法の工夫 (3) 話す力・読む力の重視 (4) 受験学力の向上
II 個性を大切に「創造性」を培う (1) 進路を意識した学校生活の充実 (2) 基本的な生活習慣の確立 (3) 健康な心身の育成 (4) 一人ひとりの生徒との対話の重視
III 開かれた学校づくりを進める (1) 授業の公開 (2) 学校評議員制度の活用 (3) 外部講師の活用

総合評価
教育課程・学習指導面において今年度導入したドリル学習は生徒の評価も概ね良い点で成果が出ているが、指導方法・教材・対象生徒等、今年度の反省を生かした更なる改善が望まれる。また、図書係・委員会の積極的な活動により本の貸出冊数が大幅に増加したことは大きな成果である。生徒指導・生徒相談の面では、職員間で一致した粘り強い生徒への働きかけを行うと共に、個々の生徒への対応方法を研究し、共通認識を持つことができるようになってきた。さらに、1年生に対するSSTの実施による成果もうかがわれるので、次年度以降も工夫したい。学習・生活両面からの生徒への支援が同時にキャリア教育になることを職員間で再認識し、これらの地道な取り組みについて保護者・地域に伝えられる工夫をしたい。

注:評価について
 ・A「十分達成できている」
 B「おおむね達成できている」
 C「やや不十分である」
 D「不十分である」
 ・「評価」欄はABCDの%について、A「4点」B「3点」C「2点」D「1点」として平均値をとり、各評価を3等分し上からB+, B, B-などとした。

平成22年度の重点目標	評価	(%)					成果と課題	改善策・向上策
		A	B	C	D	無		
① 基礎基本の定着と応用力を身につけるための個に応じた指導・相談体制を築く	B	5	86	9	0	0	ドリル学習を実施してみたことにより、一定の成果が上がった。しかし、教材や対象生徒など、まだまだ研究改善が必要である。3年生を中心に個別指導をしてきているが、体制づくりには至っておらず、今後の課題である。	ドリル学習のさらなる充実を図る。受験対策等の個別指導の体制づくりをする。
② 自らの判断と行動により充実した学校生活を創り出し、自らの力で自己実現ができるよう支援する	B-	5	73	23	0	0	多くの生徒が自ら調べ自ら努力して進路実現できてきた。一方でまだまだ自ら行動に移せない生徒もいるのが現状である。	今後も個々に応じた、さらなるきめ細かな支援が必要である。
③ 地域や各教育機関との連携を密接にし、積極的な広報活動を行う	B	9	86	9	0	0	フォトニュース・ホームページ等を通じて、積極的な広報活動に努めているが、十分な連携にはまだまだ至っていない。	小中高の連携を強めていくことを計画中である。長野大学との連携も模索中である。

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価	(%)					成果と課題	改善策・向上策
					A	B	C	D	無		
教育活動	教育課程	①学習集団の編成	・学力に応じた学習集団の編成ができたか。	B	5	86	9	0	0	習熟度別授業を展開している教科において、学力に応じた集団編成ができていない講座編成が必要になることもある。	来年度も習熟度別授業の展開をする。必要に応じて、年度途中での講座の再編成を検討する。
		①特色ある教育課程の編成	・生徒の進路希望に応じた講座編成ができたか。	B	9	82	9	0	0	3年選択講座において、生徒の多様な進路に応じた講座の編成ができた。教員配置・定数の都合で講座編成に影響が出ることもある。	生徒の進路希望に応じて、来年度も選択講座編成の改善を行っていく。
			・「総合的な学習の時間」の内容の充実が図れたか。	B+	23	77	0	0	0	担当の職員の力を発揮できるような、特色ある講座の編成ができた。	新任職員にも各人の力を発揮してもらえるよう、「総合的な学習の時間」の講座の確定を4月にする。
	①授業の工夫・改善	・わかりやすい授業が実現できたか。	B	14	82	5	0	0	アンケートにより改善に努めた。第1回の授業評価に基づき改善する形をとっている。	授業アンケートによる改善を継続したい。授業評価による改善を引き続き実施したい。	
		・生徒による授業評価に基づいて授業改善が図られたか。	B	23	64	14	0	0	第2回の授業評価では個々の授業の改善点について生徒に評価してもらうことで改善されたかどうかを確認している。	授業アンケートによる改善を継続したい。授業評価による改善を引き続き実施したい。	
		・教科内で授業を互いに見合う機会を持てたか。	B	18	68	14	0	0	年2回授業公開週間を設定できた。	可能な限り授業公開の機会を増やしたい。	
	①個に応じた指導	・個々の生徒の状況を把握した上で補習授業及び個別指導の充実が図られたか。	B	23	64	14	0	0	ドリル学習により個々の状況に応じた指導を試みている。	マナトレのドリルが生徒に有効であるようなので、次年度も運用方法・教材等に工夫を加えて継続したい。	
		・ドリルが有効的に機能したか。	B-	14	68	14	0	4	大多数の生徒はマナトレに満足している。今後、マナトレの効果をさらに高めるためには、個々の生徒へのより丁寧な対応が求められる。	マナトレのドリルが生徒に有効のようなので継続したい。	
		①体験的学習の充実	・生徒の実態に合った体験的学習になっていたか。	B+	23	68	5	0	4	個々の教科担当が試みているが、学校全体としての把握ができていない。	ひきつづき模索したい。
		①読書活動の活発化	・図書館の利用数が増えたか。	A-	50	45	0	0	4	貸出数、利用者数とも昨年度より大幅に増加。利用者に関しては1年から3年まで偏ることなく利用率が上がった。しかしその一方で、授業での図書館利用時間が減少した。来年度はもっと多くの生徒に利用してもらえるよう、貸出だけでなく授業利用してもらうための工夫をしていきたい。	授業での図書館を増やすために、図書係として準備等に努め、先生方にも使いやすい図書館を目指したい。ブックトークなどを通しての授業支援、読書指導に力を入れたい。
①②資格取得の推進	・各種検定合格者数が前年度より増加したか。	B	9	73	14	0	4	英語：受験者減少・2級合格生徒がでた 漢字：受験者微増・2級合格生徒がでた	少しでも増加するように努力したい		

生徒指導	②職員間の意識の統一	・生徒指導の方針を全職員に周知できたか。	B+	27	73	0	0	0	年度当初、バイクの減点や身なり等について新たな提案をしたが、概ね理解され統一した指導ができた。	多様な生徒に対応するため、年度途中に何度か状況判断し、最もふさわしい指導を工夫していく。
	②生徒が安心して学べる環境づくり	・暴力、威圧、いじめを予防できたか。	B	9	91	0	0	0	身なり等に関しては、強い指導ができるので改善できるが、言葉遣いや対人関係に関しては自覚させることが難しい。ケータイ・ゲーム等における誹謗中傷・いじめは情報不足を否定できない。少数の生徒であるが授業の雰囲気や壊す場面があった。情報交換を密にすることで、一定の抑止力になっていると考える。今後さらに学習環境を調えるために、SSTを実施し社会的スキルを身につけさせたい。	1学年のSSTはかなり効果があったので、次年度以降も継続していただき、さらに専門機関との連携も強化していく。専門業者による講和を、内容を精選し実施する。指導項目に「授業軽視」を取り入れ指導していく。相談室の充実と相談体制の確立が必要である。
	②家庭との連携	・家庭と連携しながら指導できたか。	B+	23	77	0	0	0	P T A総会・地区P T A等の機会しか設けられなかったが、多くの保護者が理解していると感じる場面があった。学校・家庭間で多くの情報が伝わるような機会を設けたい。必要に応じて、保護者との面談に相談委員も同席することで連携を深めることができた。	保護者にはさらに学校へ関心を持っていただき、指導すべき現状を見ていただく機会を設ける。まずはP T A役員との協力を工夫していく。相談室の充実と相談体制の確立が必要である。
	②生徒との対話	・生徒との対話を重視した指導ができたか。	B+	27	68	5	0	0	指導すべき生徒との対話に追われ、多くの良識ある生徒からの話を聞くことが少なかった。指導中の生徒には、自発的な発言を促すが、受身の生徒が多く、対話とは言い難い。必要に応じて、スクールカウンセラーを利用するなど、個々に対応した指導ができた。今後は、相談室を利用しやすくすることで、更に充実した生徒相談につなげたい。	風紀美化委員会に依頼し、生徒の生の声を収集したい。課題に取り組むことが中心なので、HRの時間等を利用し複数の職員が対話に心がける。相談室の充実と相談体制の確立が必要である。
進路指導	①②キャリア教育の推進	・将来を見据えて進路選択ができる力がついてきたか。	B	9	77	14	0	0	担任との連携をする中で、生徒個々の職業意識の確立に努め、インターンシップや企業見学を通じて意識の喚起をした。	1年・2年生の担任団と係との連携を密にして、早期に取り組むことが必要である。職業人講座を催して地元企業とのパイプを作る。
	①②進路目標の確立と進路実現	・生徒一人ひとりが進路目標を持ち、自己の課題に意欲的に取り組むよう指導できたか。	B	14	77	9	0	0	係による全員面接指導などをきっかけとして、個々の進路選択に向けて進路指導室として積極的に生徒に働きかけをし、意欲を喚起した。	3年生の個人面談を年度当初に実施し、生徒ひとりひとりに合わせた指導をしていく体制づくりをしていく。
学校運営	③授業公開	・公開方法を工夫することができたか。	B	14	55	27	0	4	宣伝方法については、次年度以降改善の余地ある。	新聞折り込み広告などを検討したい。
	③広報活動	・フォトニュースの発行12回以上、学校ポスターの作成、中学生にも分かりやすいHPづくり等の工夫ができたか。	B+	27	68	5	0	0	フォトニュース12回以上発行予定。HPはほぼ毎日更新できた。また中学生にも分かりやすくすることができた。	学校ポスターを検討したい。
	③大学との連携	・県内大学に進学した卒業生を招いて在校生が話を聞く機会を設定できたか。	B+	32	59	9	0	0	実施できたが、人選で手こずる場面があった。それは卒業後2年目以降になると、それぞれ授業に実習に忙しいこともあり、なかなか日程が合わず思うようにはいかなかった。今後については、卒業生にかかわらず、大学から講師を招いて進路講話も考えていけたらと思う。	不十分であり、今後早急に体制づくりをするべきである。
	研修	①②職員研修の充実	・職員研修会の他に研修の機会を設定できたか。	B+	18	82	0	0	0	A E D研修、元気アップ講座など機会を設定できた。

学校関係者評価						
	内 容	A	B	C	D	評価・意見
1	学校教育目標・重点目標は適切であると思う。	71.4	28.6	0	0	<p>評価・意見</p> <p>○教育目標・重点目標・評価観点共に適切であり、改善方法も具体的にまとめて表現されていて分かりやすい。おおむね達成出来ている評価であるがAも多く心強い。職員間の意識統一もよく感心。</p> <p>⑤予備調査で「授業レベルを見直し、かなり落とした」のは残念。</p> <p>⑧ドリルは有効的と思われるので機能充実を。</p> <p>⑩図書館利用数大幅増には好感。</p> <p>⑳長野大との交流活動をもっと積極的に希望。</p> <p>○評価・改善のサイクルを大切にされているところがよいと思います。評価が職員の意欲につながるようにしていくことも大事にしたいものです。広報活動はとてもよくされていますのでさらに成果をどしどし伝えていけるといいと思います。</p> <p>○本校が掲げている教育目標は極めて適切であると思います。教育目標は高きに掲げていくことが極めて大事なことだと思っています。</p> <p>○重点目標の①②③を評価項目に連結させているところが明確になっていてよいと思います。資料もはっきりしてよい。</p> <p>○学校として評価を求める項目をはっきりさせている点が良い。</p> <p>○夢高はコース制があると同時に又地域高校であり、学力差が常に見受けられるため、先生の授業の進め方に大変な御苦労があるかと思っています。今、補習や時間外で基礎的学習を実施していただいておりますが、町と立中等にさらなる連携で多様な支援をしていただいております。ありがとうございます。</p> <p>○資格取得の推進に今より力を入れてほしい。</p>
2	評価項目・評価の観点は適切であると思う。	71.4	28.6	0	0	
3	各項目についての取り組み状況はよいと思う。	28.6	71.4	0	0	
4	「学校評価」のための資料はわかりやすく作られていると思う。	71.4	28.6	0	0	
5	評価の仕方は適切であると思う。	57.1	42.9	0	0	
<p>Aはい Bどちらかといえばはい Cどちらかといえはい Dいいえ (%)</p>						